

一橋大学社会学部連続市民講座 2015

「ニホン／ニッポン」

—日本イメージを解体する—

一橋大学社会学部は2006年4月から、全8回の連続市民講座を行っています。
12月までほぼ1か月に1回のペースで行い、講座は社会学部の教員スタッフが担当します。
今回は共通テーマに「『ニホン／ニッポン』—日本イメージを解体する—」を掲げます。
社会学部の学際的で総合的な特徴を生かし、教育、地域社会などの身近な話題から国内外の政治・経済の動きを踏まえて、専門家である教員が、わかりやすい言葉で幅広く論じます。

■ 2015年度 講座一覧（講座の題目は予定であり、変更する場合があります。）

	月 日	講 師	タ イ ト ル
第1回	4月18日（土）	渡辺 尚志 教授	江戸時代の村と百姓の実像
第2回	5月23日（土）	中澤 篤史 准教授	（スポーツ＋学校教育）÷日本＝運動部活動
第3回	6月20日（土）	伊藤 るり 教授	日本のトランスナショナルな社会空間—バリ オ・フィエスタと世界のウチナーンチュ大会か ら考える—
第4回	7月18日（土）	児玉谷史朗 教授	日本の援助（ODA）—対アフリカ援助を中心に—
第5回	9月19日（土）	村田 光二 教授	日本人イメージと外国人イメージ
第6回	10月17日（土）	田中 拓道 教授	日本の自画像—政治学の視点から—
第7回	11月21日（土）	林 大樹 教授	日本の会社人間と社会人間
第8回	12月19日（土）	太田 美幸 准教授	「日本の教育」の内と外—国境を越える子ども たちの学校経験—

会場／時間

兼松講堂（一橋大学国立西キャンパス）
時間：13：30～15：00（質疑応答約15分を含む。）

参加方法

参加は、無料。どなたでも入場できますので、当日、
直接会場までお越しください。なお、6回以上出席し
た参加者には修了証を発行します。

問合せ先

一橋大学社会学部事務室
住所：東京都国立市中2-1
TEL：042-580-8212
E-mail：info@soc.hit-u.ac.jp



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

協力／一橋新聞

「失われた 20 年」や人口減少社会の到来で元気がない国ニホン／ニッポンですが、この 20 年間、研究のために海外で何度か暮らした経験をふり返ると、私の個人的な印象では、むしろ日本が経済大国の自信に満ちていた時代よりも現在の方が、若者を中心に愛着や好奇心の対象になっていると感じます。とはいえ、愛されたり嫌われたりしてきたニホン／ニッポンって、いったい本当は何なの？と問われ、あるいは自問するとき、その答えは簡単ではありません。一橋大学社会学部には、不思議の国ニホン／ニッポンをあらゆる角度から研究するという点では文字通り世界最高水準のスタッフが揃っています。選りすぐりの講師陣が、どんな風に「日本イメージを解体」するのか大いに期待していただきたいと思います。あわせて、国立の美しいキャンパスと知の営みを護る「怪物が棲む講堂」兼松講堂の雰囲気も、ぜひお楽しみください。中野 聡 皆さまをお待ちしております。



一橋大学社会学部長

講座担当教員

渡辺 尚志 (わたなべ たかし) 教授

専門は日本近世村落史。全国各地の古文書を読み解き、江戸時代の村と百姓の姿を解明している。主著に、『百姓の力』（柏書房）、『百姓の主張』（同）、『百姓たちの江戸時代』（筑摩書房）、『百姓たちの幕末維新』（草思社）、『百姓たちの水資源戦争』（同）など。担当科目は「日本社会史特論」など。

中澤 篤史 (なかざわ あつし) 准教授

専門は、身体教育学、スポーツ科学、社会福祉学。外国人が驚く日本の「部活」って何？と考え続けて、『運動部活動の戦後と現在：なぜスポーツは学校教育に結び付けられるのか』（青弓社）を上梓した。担当科目は、「身体と教育」「健康と福祉」など。

伊藤 るり (いとう るり) 教授

専門分野は国際社会学。人の国際移動の問題を通して、グローバル化と国民国家の変容について研究している。近年は、ヨーロッパにおける移住家事・介護労働者の就業状況に関心をもち、現地調査を行っている。編著に『国際移動と連鎖するジェンダー』、『モダンガールと植民地的近代』など。担当科目は「国際社会学Ⅰ」、「社会研究入門ゼミ」など。

児玉谷 史朗 (こだまや しろう) 教授

専門はアフリカ地域研究、開発学。アジア経済研究所研究員を務めた後、1991年から一橋大学社会学部教員(2000年以降は社会学研究科)。ザンビア、ケニア、ウガンダなど、東南部アフリカの農業、農村開発の研究をしてきた。授業では「国際開発論」、「発展途上国の諸問題」などを担当している。

村田 光二 (むらた こうじ) 教授

専門は社会心理学、特に社会的認知研究。実験や調査データをもとに、人の社会認識のメカニズムやプロセスについて研究をしてきた。共著に『こころと社会』（東京大学出版会）、『複雑さに挑む社会心理学』（有斐閣）などがある。担当科目は「心理学」「社会心理学」「対人関係心理学」など。

田中 拓道 (たなか たくじ) 教授

専門は比較政治、政治理論。日本とヨーロッパの福祉国家改革を比較するとともに、福祉を支える理念についても、歴史と政治哲学の観点から検討を進めている。主著に『貧困と共和国』（人文書院）、『よい社会の探究』（風行社）など。担当は「社会科学概論」「政治思想」「比較政治」など。

林 大樹 (はやし ひろき) 教授

専門分野はコミュニティ政策論。グローバル経済化の強影響を受けながら、少子高齢化と人口減少に直面する日本の地域社会の行く末に関心を持っている。授業科目は「まちづくり」「人間環境論」などのほか、キャリア教育科目の「インターシッブ」「起業家論」「水の社会科学」なども担当している。

太田 美幸 (おおた みゆき) 准教授

専門は比較教育学、学習社会論。制度内外における教育の組織化過程に働く多様な力学と、その結果として形成される「学習社会」の構造を解明することを目指している。主著に『生涯学習社会のポリティクス』（新評論）、編著『ノンフォーマル教育の可能性』（新評論）など。担当科目は「比較教育学」「地球市民の形成」など。